

2021/12/5-3

(うときゅういっきの「これから」同調圧力 その諸相)

どちらが正しいのか分からなくなる不安。

おかしいのは外国なのか我が国なのか？おかしいのは周りなのか自分なのか？

そんな場合、人は無明の不安や焦燥に駆られて「解」とまでは行かずとも兎に角何かを探し始める様です。

元々観察好きな自分は他に方法も知らなかったので今まで以上に観察をし続けました。

辺りキョロキョロの益々「妙な奴」になって。

そして今回もその観察結果の「結論 (エッセンス)」を先に書いてしまいます。

ある人が我が国は資本主義国ではなく隠れ社会主義国だと言ったのを耳にして自分は

「我が国は隠れ全体主義国だ」

と瞬間的に思いました。

お上が強いているというよりも国民相互が「秩序を乱す不穏分子」を事前に発見すべく互いに見張り合う「相互監視社会」なのではなかろうかと。

そしてこの場合の秩序こそが「一」なのではなかろうかと。

是また概念を先に申し上げますと

「我が国では全部が一方向に向かってしまい、真の意味での対立軸、対抗軸が発生しない。

その発生は秩序を乱し作業を遅らせる物として疎まれる。なので、言われる前にそれこそ忖度しまくって突出を引き戻して飲み込み、一方向にばかり進んでしまう。

では監視対象の不穏分子が誰なのかと言えば自分に近い者の順番。

同僚、友達、近親者家族、そして最後は自分の中の不穏分子的な傾向を自分で自ら密かに押さえ込む。国語辞典的に言えば自重」

此処で始めて事例を挙げますと、例えば

コロナ禍、社内換気のためにバスの窓を開けたいが人目を引くので止める自重。

とか

学生がお年寄りに席を譲りもせず傍若無人に振る舞っているのに注意をしたいが、逆に目立つので止める自重。

とかの「自重」

はたまた家族の中から外目から見て明らかな不穏分子を出さない為に、無理矢理黙らせたりに逆に何でも言う事を聞いてしまったりする傾向。仮面を被ってでも不穏を外に見せない傾向。

以上は不穏の自重関係でしたが、一方向関係の事例で申せば、是はなんと言ってもニュース番組やネットでの投稿です。

在る話題が上ると直ぐへ右に倣え、です。そしてニュースが此処までやりました、此処迄やっている処もあります関係の記事を流す。まるで先生に褒めてもらおうと「僕 (私) 此処迄やったよ、の報告合戦」を繰り広げ幼稚園児みたいです。

前者に付き物なのが「人の目線」

もっと言えば周りはスパイだらけ。

そして後者に付き物なのが同一フィールドでの「張り合いっこ」

同じフィールドでの張り合いなので同一方向にドンドン伸び上がる事に。

そして此れ等を明ら様に咎めるのは「無作法」と言う事で此処で又「自重」

こうなると最早何も言えないし出来なくなってしまう。

言う前、試す前に何から何迄自ら引っ込めてしまうのですから。

そして外見上世の中は突出もなく一体感を持って済々と流れている様に見える。

めでたし、めでたしという筋書きの成立と相成ります。